

2 課

1月14日

私たちと共にある 神の契約



安息日午後 1月7日

暗唱聖句

もしあなたが、あなたの神、主の声によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行うならば、あなたの神、主はあなたを地のもろもろの国民の上に立たせられるであろう。もし、あなたがあなたの神、主の声に聞き従うならば、このもろもろの祝福はあなたに臨み、あなたに及ぶであろう。(申命記 28 : 1、2、口語訳)

もし、あなたがあなたの神、主の御声によく聞き従い、今日わたしが命じる戒めをことごとく忠実に守るならば、あなたの神、主は、あなたを地上のあらゆる国民にはるかにまさったものとしてくださる。あなたがあなたの神、主の御声に聞き従うならば、これらの祝福はすべてあなたに臨み、実現するであろう。(申命記 28 : 1、2、新共同訳)

今週の聖句

マタイ 10 : 22、ヨハネ 6 : 29、申命記 28 : 1～14、箴言 3 : 1～10、マラキ 3 : 7～11、マタイ 6 : 25～33

今週のテーマ

驚くべきことに、神は私たち人間と契約を結ばれました。ほとんどの契約は二者間で交わされ、両者（神と人間）は履行すべき役割を持っています。例えば、「あなたがこれをするなら、私はこれをする」というものです。

契約のまれな形として一方的な契約があります。「あなたが何をしようがしまいが、私はこれをする」というものです。神が人類と交わされた契約のいくつかは一方的な契約です。例えば、「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるから」(マタ5:45)、私たちは、何をしようがしまいが、神に太陽と雨を期待することができます。洪水の後、神は、人類と「地のすべての獣」に対して、人の行為にかかわらず全地を覆う洪水が再び起こることはないと言われました(創9:9～16参照)。主はまた、「地の続くかぎり、種蒔きも刈り入れも／寒さも暑さも、夏も冬も／昼も夜も、やむことはない」(創8:22)と約束されました。人の行為にかかわらず季節は巡ってきます。

今週、私たちは神とその子らとの間に結ばれた二者間の契約について学びます。神の恵みによって「契約を最後まで守ることができるよう」祈りましょう。

カルバリーのキリストの死は、かつて生きた者、これから生きる者、そのすべての者に救いを可能にしました。季節を巡らせる約束とは違って、救いは一方的な契約ではなく、その人が何をしようとするすべての者に与えられるわけではありません。だれでも救われると信じることを「万人救済説」と言います。

対照的に、イエスは全人類のために死なれましたが、多くの人々が滅びと永遠の死に至る道を歩んでいることを教えられました（マタ7：13、14）。

問1 次の聖句は、人々がイエスにある救いの賜物を受け取るかについて、どのように述べていますか。

1 ヨハネ 5：13

マタイ 10：22

ヨハネ 6：29

2 ペトロ 1：10、11

パウロは、救いの契約が二者間の契約であることを理解していました。彼はまもなく殉教することを知りながら、また、多くの仲間たちが自分を見捨てたにもかかわらず、愛する友であるテモテに、自分は最後まで契約を守り通したと確信をもって語りました。「わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるので。……しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます」（2テモ4：6～8）。

パウロは言います。「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました」。パウロは、救いは律法の行いによらず、信仰によってのみということを常に確信していました。ですからここで、自分の行いや功績が神から救いを勝ち取ることになるとは考えていませんでした。彼を待っている「義の栄冠」はイエスの義であり、パウロが信仰によって求め、生涯の終わりまで持ち続けたものでした。

無償の賜物である救いを受け入れる人と受け入れない人の違いは何ですか。この賜物を受け入れるには何をする必要がありますでしょうか。

申命記は、荒れ野を40年間さまよった次の世代であるイスラエルの第二世代へのモーセの告別のメッセージです。このメッセージは、エリコのすぐ東にあるモアブの平野で語られました。申命記は、「回想の書」と呼ばれています。

モーセはこの書の中で、神のイスラエルに対する忠実な扱いを回想しています。シナイ山から約束の地の端にあるカデシュ・バルネアまでの旅、また、反逆と40年の荒れ野の放浪を振り返りました。十戒、什一の規定、中央の倉について再び語りました。しかし申命記の第一の焦点は、神に従って祝福を受けよとの勧告です。モーセは神を、ご自分の民を思いやることができる力を持たれ、また、思いやることを強く願うお方として描いています。

問2 申命記 28：1～14 を読んでください。神の民のためにどのような素晴らしい祝福が約束され、それを受けるためのどんな条件が示されていますか。

モーセは、神がご自分の民のために、驚くべき、奇跡とも言える祝福を用意されていることを民に理解して欲しいと強く願っていました。「もし、あなたがあなたの神、主の御声によく聞き従うなら」という主の御言葉は、ここに永遠の運命がかかっていることを教えていました。なんと力強い自由な選択の現実についての表明でしょう。彼らは、神に選ばれ、大きな祝福と約束を受ける民でしたが、その祝福と約束は、無条件に与えられるものではありませんでした。彼らは、その祝福と約束を受け入れ、受け取り、行動する必要がありました。

神がご自分の民に求められたことは、難しいものではありませんでした。「わたしが今日あなたに命じるこの戒めは難しすぎるものでもなく、遠く及ばぬものでもない。それは天にあるものではないから、『だれかが天に昇り、わたしたちのためにそれを取って来て聞かせてくれれば、それを行うことができるのだが』と言うには及ばない。海のかなたにあるものでもないから、『だれかが海のかなたに渡り、わたしたちのためにそれを取って来て聞かせてくれれば、それを行うことができるのだが』と言うには及ばない。御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる」(申 30：11～14)。

もちろん、祝福の他に、もし従わなかったら何が起こるか(申 28：15～68)、つまり、罪と反逆がどんな結果をもたらすかという呪いの警告もありました。

今日、神が私たちに言うように求めておられることに「よく聞き従う」とは、何を意味するでしょうか。

問3 箴言3:1~10を読んでください。なんとすばらしい約束でしょう。「それぞれの収穫物の初物」とは何を意味するのでしょうか。

神は、私たちの所有物の管理において、神を第一とするよう求めておられます。これは、すべてのものが神の所有物であることを認め、神が私たちを養ってくださるという信仰を示すものです。しかし、それ以上に、私たちが神を第一とするなら、神は残りのものを祝福すると言われます。私たちにとって、そうすること、つまり、神を第一にすることは、信仰の行為であり、信頼の行為であり、心を尽くして主を信頼し、自分の分別に頼らないことの表明です（自分の分別に頼らないことは特に重要です。なぜなら、私たちが理解できないこと、意味のわからないことはしばしば起こるからです）。

また、十字架ほど、神と神の愛をより信頼するように、私たちが駆り立てるものはありません。創造主（ヨハ1:1~4）であり、また支え主（ヘブ1:3）であるだけでなく、贖い主（^{あがな}黙5:9）として、私たち1人ひとりが、イエスにあって何を与えられているかを理解するとき、私たちが持っているすべてのものの初穂を神にお返しすることは、実に私たちがができる最も小さな行為にすぎません。

「神は十分の一を御自分の物として要求されるだけでなく、それを神のためにどのように取っておくべきかを告げられる。『それぞれの収穫物の初穂をささげ……て主を敬え』。これは、自分のために金銭を費やして、それから、たとえ、正直な十分の一であっても、その残りの中からささげてはならないことを教えている。神の分は第一に取り分けるべきである」（『祝福に満ちた生活——スチュワードシップに関する勧告』95、96ページ）。

神は、もし私たちが神を第一とするなら、「あなたの倉に穀物を満たし」と言われます。しかし、それは奇跡によって起こるものではありません。あなたがあある朝、目を覚ますと、あなたの倉や桶が満ちている、というようなことではないのです。

その代わり聖書には、良い管理、入念な計画、経済的責任についての原則が数多く書かれています。神が私たちに要求されていることを行う忠実さが、私たちの第一の、そして最も優先すべき責任です。

しかし、私たちが神に忠実であることを求めながらも経済的困難にあるとき、どのように神とその約束に信頼することを学ぶことができるのでしょうか。

什一の実践と神との関係の間には、密接な霊的關係があります。イスラエルは、神に従い、什一に忠実であったときに繁栄しました。対照的に、そうでなかったときには、困窮に陥りました。彼らは、服従と繁栄、不服従と困窮というサイクルを繰り返したようでした。神が預言者マラキを通して、ご自分の民との二者契約を提案されたのは、民が不従順な時のことでした。

問4 マラキ3：7～11を読んでください。ここにどのような約束と義務が示されていますか。

神は、もし民が神に立ち帰るなら、主も彼らに立ち帰ると約束されました。彼らが、神に立ち帰るとはどういうことですかと尋ねたとき、主ははっきりとお答えになりました。「あなたがたは、わたしの物を盗んでいる。……十分の一と、ささげ物をもってである」(マラキ3：8、口語訳)。彼らが盗んでいたことが、呪われていた理由でした。ここに呪いの問題に対する神の解決策があります。「十分の一の全部をわたしの倉に携えてきなさい」(同3：10、口語訳)。そしてあなたたちがそうするなら、「必ず、わたしはあなたたちのために／天の窓を開き／祝福を限りなく注ぐであろう」(同3：10)。祝福が限りなく注がれるなら、私たちの必要だけでなく、他の人を助け、神の働きを前進させるための分も与えられます。

「あなたのために死ぬためにひとり子をお与えになった神は、あなたと契約されたのである。神はあなたに恵みを与え、その代わりあなたが、十分の一と諸献金をささげる事を要求される。だれも、このことについて理解できる方法がなかったということはできない。十分の一と諸献金についての神のご計画は、マラキ書三章にはっきり書かれている。神は人との間に結ばれた契約に人が忠実であるように求められる」(『祝福に満ちた生活——スチュワードシップに関する勧告』88ページ)。

服従のプラスのサイクルの一例が、ユダの善良な王ヒゼキヤの治世に見られます。ユダに真実のリバイバルが起き、民は忠実に什一と献げ物を神殿の倉に納め始めました。神殿に山積みされるほど、多くの献げ物がなされました。歴代誌下31：5には、「イスラエルの人々は穀物、ぶどう酒、油、蜜など、畑のあらゆる産物の初物を大量にささげ、またあらゆる物の十分の一を大量に運んで来た」と記録されています。

あなたの什一は、あなたの霊性と神との関係について何を語っていますか。

イエスについて、「大勢の群衆は、イエスの教えに喜んで耳を傾けた」（マコ12:37）とされています。イエスに従い、その教えに耳を傾けた大群衆の多くは、ありふれた、ごくふつうの人々でした。彼らは山麓で〔パンの奇跡によって〕養われ、山上の説教を聞いた人たちでした。イエスは彼らに言われました。「わたしはあなたがたが家族のために何を用意しようかと案じ、日々の暮らしに必要な食べ物、飲み物、そして身を温め、寒さから守るための服のことを心配しているのを知っている。しかし、わたしが与える物は……」

問5 マタイ6:25～33を読んでください。ここで何が約束され、その約束を受けるために人々がすべきことは何でしたか。

神の約束の多くは、二者間の契約の要素があります。それは、祝福を受けるために私たちが自らの役割を果たす必要があるということです。

問6 イザヤ26:3を読んでください。神の平和を得るために私たちは何をすべきですか。

問7 1ヨハネ1:9を読んでください。私たちが罪を告白するなら、イエスは何をしてくださいますか。

問8 歴代誌下7:14を読んでください。ここにどのように約束された神の行為と、その条件として人間のなすべき行為が示されていますか。

これらの聖句と他の多くの聖句は、神が主権者であり、創造主であり、支え主であり、救いは人の功績によらず神の恵みによる賜物であり、私たちはこの地上での大争闘において果たすべき役割があるという重要な事実について述べています。私たちは、自由意志、自由な選りという神聖な賜物を用いて、聖霊の訴えに従うことを選び、神が私たちに要求されていることを行うことを選ぶ必要があります。神は祝福と命を受けるように求められますが、私たちは呪いと死を選ぶこともできます。神は言われます。「あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るように」（申30:19）。

「神の民はいつでも、世界のいかなる時代にも、快活に、喜んで組織的な善い行い〔什一〕と贈り物と献げ物によって神の計画を遂行してきました。彼らは、繁栄はすべての彼らの働きに、すなわち彼らが神の求めに従った分に応じて与えられることを理解していました。彼らが神の訴えを知り、その求めに応じて彼らの資産をもって神に栄光を帰したとき、彼らの納屋は多くの物で満たされました。しかし、彼らが什一と献げ物において神から盗んだとき、彼らは神から盗んだだけでなく、彼ら自身からも盗んでいたことに気づきました。なぜなら神は、彼らに対する祝福を、彼らが神への献げ物を制限した分に応じて制限されたからです」（『教会への証』第3巻395ページ、英文）。

聖書は、私たちが、信仰によってのみ、神の恵みの賜物によって救われることを明確に述べています。私たちが神の命令に従うのは、神の恵みに対する応答であり、それは、神の恵みを獲得するためではありません（もし行いによって得られるのであれば、それはもはや恵みではありません。ロマ4:1~4参照）。

実に、神が私たちと結ばれた二者間の契約を考えると、私たちの祝福と責任の両方を見ることができ、神が与えてくださったものに対する私たちの応答によって、私たちは神との関係を確立し、それがかなりの程度、私たち自身の運命を決定します。服従、すなわち愛の奉仕と献身は、弟子であることの真のしるしです。私たちが服従から解放するのではなく、信仰、信仰のみが、私たちをキリストの恵みにあずからせ、神が私たちに求めておられる服従に導くのです。

話し合いのための質問

- ① すべてのアドベンチストが、忠実に什一を神にお返しするなら、私たちの教会は福音使命の宣教に必要なすべてにまさって、あり余る資金を得るだろうと言われています。什一と献げ物において、あなたは教会が神から与えられている使命を果たすのを助けるために何をしていますでしょうか。
- ② 私たちの選択と行いが神との関係においてどれほど重要であるかについて、さらに深く考えましょう。律法主義のわなに陥らずに、什一をささげることや良き管理者となることを含めて、私たちの前に置かれている行いと服従の問題にどのように向き合っていくべきでしょうか。
- ③ 私たちが忠実であってもなお困窮するとき、どうあるべきかという火曜日の最後の問いについてクラスで話し合しましょう。そのような現実と直面したとき、それをどのように理解すべきでしょうか。そのような時にも失望しないためには、どうすればよいでしょうか。

神と取引する

ロシアからの留学生ドミトリー・バガルは、ドイツのフリーデンサウ・アドベンチスト大学の神学修士課程に入学したものの、数か月後に資金が底をついてしまいました。外国人の彼は国のローンを利用できません。学内や近くの老人ホームで働くことはできましたが、その収入では授業料の一部しかまかなえません。しかし彼は、ローンよりも少額ですが、返済義務のない奨学金を申請することはできました。

ドミトリーが悩みのうちに祈っていると、神様と取引するように促されている感じがしました。彼は、次のように祈りました。「神様、もし奨学金を受け取ることができたら、宣教支援のために什一の2倍の額をお返しします」

結果、奨学金の申請は承認され、彼は神様と約束したとおり、総収入の20パーセントを宣教のために取り分け始めたのです。学期が進むと再び奨学金の受給が認められ、二度目も2倍の額をささげました。不思議なことに、献金をささげたあとも彼の手元には十分な資金が残り、緊急時のための貯金をすることもできました。

ところが、ドミトリーが論文を書いているとき、5年間使い続けてきたノートパソコンの調子が悪くなりました。二度、部品を買って修理しましたが、ヒンジ（開閉部）が動かなくなり、ついに画面を閉じることができなくなってしまいました。論文を書き上げるためには新しいノートパソコンが必要です。しかし、緊急時のための貯金があったので、ホッと胸をなでおろすことができました。

しかし、この状況について祈っていると、ドミトリーは、南米のジャングルで宣教師をしている親友のことが脳裏に浮かびました。高温多湿の環境で彼のタブレットも壊れてしまい、仕事を続けるために頑丈なパソコンが必要でした。卒業するためには自分自身もパソコンが必要なのに、なぜ南米の親友のことを思い出したのか理解できませんでした。しかしドミトリーは、防水防塵対応のノートパソコンを購入すると、それを親友に送りました。

その直後のことです。ドミトリーのノートパソコンの画面に、修理に必要なヒンジの広告が表示されました。早速部品を注文して交換してみると、まるで新品のように開閉できるようになりました。8年経った今も、彼のノートパソコンは現役で活躍しています。



ドミトリーは、宣教を第一にする人を神様が豊かに祝福してくださると信じて疑いません。彼は、次のように告白しています。「僕のノートパソコンをこんなに長く持ちさせてくださったのは神様です！」

(アンドリュー・マクチェスニー)